

旅先のごみ箱写真

The Re-Create Works' なかむら 中村 けいこ 恵子

旅に出ると「犬も歩けば…」ではありませんが、さまざまなごみ箱に当たります。なぜごみ箱が路上に置かれるようになったのでしょうか？

以前訪れた国では『すべてが土に戻っていた時代のままポイ捨てをやめなかったところ、土に戻らない人工物が多くなり風で飛ばされやすく散乱するのでごみ箱を置いた』そうですが、中に入ったモノはそのまま海辺や山中に野積みされるので何時までも減らずに増えるばかりだったとか➡それらがマイクロプラスチックと呼ばれる海洋浮遊ごみになって、世界中で対策を考えるとときになりつつあるのではないのでしょうか。

そのあたりを考えてかどうかは不明ですが、路上に並ぶ機能性をもった分別回収箱が増えた中で、ごみの散乱防止用には、人目を引くデザイン・楽しい雰囲気・老若男女子供向用に作られ、入れてみたくなるようなものを見かけます。



写真1 ごみ箱コンテストで1位になったユニークなオランダのごみ箱。自転車ライダー用に設計され、ごみカゴがまるで玉入れゴールのように高い位置に、設置されている。オランダ、ヘルフゴヴァールト辺りにて(2010年3月30日) 水谷聡氏提供

また、近年はテロ対策として、路上に設置されたものは中が見える透明プラスチック袋が増えてきているようにも思えます。

「ごみ箱」といわれるだけあって「ごみごみとした雑多なもの」が入っていて、事後処理はどうなされているのかが気になるのは私だけでしょうか？

幼い頃、不要になったものはポケットか鞆に入れて持ち帰るようにと躾られ、何でも持ち帰ります。これほどまでに容器包装が多様化すると私の作品素材としては面白いのですが…多くの人は自分の手を離れた途端『無関心になってしまう』ことが、さまざまな環境負荷を増やしているように思えてなりません。

環境先進国といわれる国のように、有機物は路上コンポスト容器に、資源化可能なものはデポジットに…後始末よりも前始末(ごみ処理ができないものは作らず、手に入れず、ごみを出さないですむ)



写真2 ごみ箱コンテスト第2位のオランダのごみ箱。オランダ、ユトレヒトにて(2010年3月28日) 水谷聡氏提供



写真3 デンマークのバッケン遊園地内のハンバーガーの乗ったごみ箱
デンマーク、シェラン島クランベンボーにて（2003年8月24日）水谷聡氏提供

を考えた『2R暮らし』のきっかけになるようなごみ箱が増えることを願います。

旅先で出会い、思い出の一部となった写真は、写されたときの思いを毎年の研究発表会で皆さんと共有できればいいな～という意見から個人の収蔵ではなく市民展示会場の消費者市民研究会ブースにてご覧いただけるようにいたしました。



写真4 駅構内の分別ごみ箱
赤：プラスチック 青：新聞雑誌 黒：缶
となっていました。同じ地域の空軍基地で使われていたものと色分けが赤青は同じでしたが、缶を入れる黄色が違っていました。色別に分別感覚があるのかどうなのかわかりません。表示のマーク円の矢印先が♡になっているのはどのリサイクルマークも同じ（UK統一マーク？）でした。英国 コッツウォルズ地方ケンブルにて（2011年7月15日）
赤：plastic bottles プラスチック ボトル
青：newspapers /magazines 新聞 / 雑誌
黒：cans 缶



写真5 同型で左手に持つものがタバコ・缶・犬の糞の異なる3種類がありました。ごみ箱の側面に犬が糞を残す絵、煙の出たタバコが描かれていたので「犬の糞」用だと思えます。ドイツ、ベルリンにて（2013年7月10日）

旅先で出会ったごみ箱写真が、会員以外で興味を持たれた方々を入会にお誘いする一助になれば、と願っています。

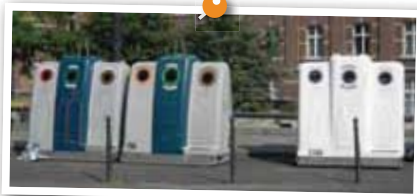


写真6 空き瓶回収ボックス。かなり背が高く、白色のみ別になっています（右）
左2基は中央のボックスが青色となって「色付きガラス」。ベルギー、ブリュッセルにて（2013年7月1日）



写真7 航空ショー会場内 特設分別回収箱
英国、フェアフォード英国空軍基地にて（2013年7月21日）
赤：all plastics プラスチック容器すべて
黒：general and food waste 普通ごみ
黄：all metals 金属製すべて
青：mixed paper & card 紙類・ボール箱